

研究・調査報告書

報告書番号	担当
6 1	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Risk factors for multicentric occurrence of carcinoma in the upper aerodigestive tract-analysis with a serial histologic evaluation of the whole resected-esophagus including carcinoma. 上部消化器癌の多中心性発生の危険因子について — 腫瘍を含む切除食道の組織学的評価をもとにした分析	
執筆者 Morita M, Araki K, Saeki H, Sakaguchi Y, Baba H, Sugimachi K, Yano K, Sugio K, Yasumoto K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) J Surg Oncol. 2003 Aug;83(4):216-21.	
キーワード 喫煙、飲酒、家族歴、上部消化器癌、多中心性発生	
要 旨 背景及び目的： 著者らは上部消化器癌の多発性に生活習慣と家族歴の両方が関係していることをすでに報告している。本研究の目的は癌の個数と危険因子の関係を明らかにすることである。 方法： 114名の男性食道癌患者（group I：単発性癌の患者88名、group II：重複癌の患者11名、group III：3つ以上の癌を有する患者15名）の放射線治療が行われていない食道について組織学的な評価を行った。良性疾患の男性患者228名を対照とした。 結果： group IIIではgroup Iや対照群に比べて多量喫煙者及び多量飲酒者の割合が有意に高かった（多量喫煙：67%vs28%vs14%、多量飲酒：60%vs30%vs10%）。多量喫煙者でありかつ多量飲酒者である者の割合は対照群：2%、group I：10%、group II：27%、group III：47%であった。家族歴についてはgroup IIIでは近親者に上部食道癌または肺癌の者がいる割合は27%で、一方、対照群においては7%であった。 結論： 多量喫煙及び多量飲酒は上部消化器癌及び肺癌の家族歴と同様に上部消化管癌の多中心性発生の危険因子であることが明らかとなった。	